

## 低投入の技術とマーケティング手法を活用した養殖で普及に成果

ベナンでは、国内漁獲量だけでは需要を満たせず、その約半分を輸入に頼っています。さらに、人口増加が進んでおり、この需要不足に拍車をかけています。ベナンの国土は海岸線が約120kmと短いので海面漁業の生産量は少なく、内水面からの漁獲量が総漁獲量の80%を占めています。しかし、近年は資源の過開発のために生産量が減少または横ばい傾向にあります。このような背景から、ベナンでは魚を獲ることではなく、養殖することによる増産が注目されており、JICAは、「内水面養殖振興による村落開発計画調査」の結果を踏まえ、南部7県の内水面養殖振興を支援しています。

プロジェクトでは、養殖の普及・振興に民間養殖家を活用する「農民間研修」アプローチを導入し、政府の投入に過度に依存しない普及システムの構築を支援しています。具体的には、先進的な養殖家（中核養殖家）が政府に代わって種苗や餌を生産し、これらの販売によって利益を得る代わりに、中核農家自身が一般養殖家に研修をする仕組みです。専門家は中核養殖家に対して研修を実施、その後は中核養殖家が販路拡大を目指して一般養殖家への指導を行い、さらに将来

にわたっての顧客とするために継続したフォローアップも行います。また、プロジェクトでは、裏庭の小さなスペースでも簡易に生産できる箱養殖も推奨しており、女性グループがマイクロクレジットを活用して箱養殖に挑戦しています。養殖振興は、女性達の仕事や収入源の多様化にもつながっているのです。これらの協力の結果、これまでに約500戸の養殖家が本プロジェクトの支援で養殖を開始ないし再開をし、生計向上につながっています。



女性によるナマズの箱養殖。1箱で70kg程度を養殖。  
1回の生育期間は4か月ほど